

旭川南高校のキャリア教育について

北海道旭川南高等学校
校長 前 田 豊

1 学校概要

(1) はじめに

本校は、平成21年4月、北海道旭川北都商業高等学校と統合し、北海道で11番目の総合学科校として新設された。札幌に次ぐ大都市である旭川市の南に位置しており、大学や専門学校が近隣に多く所在している。その地域の特徴を生かした、都市型・進学型の総合学科を目指して、「市民の期待に応える学校づくり」を合い言葉に、旭川南高校が新たにスタートした。1～4期の卒業生は進路において前身校を上回る実績をあげており、今年度創立60周年を迎える。



【校舎・生徒風景】

(2) 学校教育目標

- 自立の精神にあふれ、夢や希望の実現に挑戦できる実践力のある人間の育成
- 個性を生かし、自己の才能や素質を最大限に発揮できる主体的な人間の育成
- 豊かな心と健康な身体を持ち、生涯にわたって自己を高めつづける人間の育成

(3) 系列と特徴等

系 列	特 徴 等
人間文化	人文科学系科目の学習を通して、我が国や諸外国の地理・歴史や文化に対して理解を深めるとともに、国際社会に対応できる能力と態度を育てる。
社会科学	人文社会系科目の学習を通して、社会のシステムや現状と課題を認識し、社会的諸課題の解決に取り組む能力と態度を育てる。
自然科学	自然科学系科目の学習を通して、自然現象や自然環境に対する理解を深めるとともに、物事を数学的・科学的に考察し処理する能力を育てます。
看護・医療	生物・看護系科目の学習を通して、生命や医療に対する理解を深めるとともに、将来の医療従事者として活躍できる能力と態度を育てる。
情報 ビジネス	情報処理やコンピュータ・ビジネスについての学習を通して、情報・ビジネスの基礎的・基本的な知識と技術を身につけるとともに、高度情報社会に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
国際コミュニケーション	諸外国の言語や文化、生活習慣についての学習を通して、多様な文化を持つ人々とのコミュニケーション能力を育成するとともに、積極的に国際交流に寄与できる能力と態度を育てる。

2 本校のキャリア教育

(1) 全体像

1年次の「産業社会と人間」、2年次・3年次の「総合的な学習の時間」を活用した系統的なキャリア教育の推進を通して、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深める学習や生徒の興味・関心、個性を生かした科目選択（指導）を行っている。また、主体的な学びを重視し、多様な能力や適性、態度を身につけるため、社会体験学習やボランティア活動、地域貢献活動等を広く生徒に奨励し、日常のあらゆる学校行事や教育活動を通して個に応じたキャリア発達を図っている。

(2) 「産業社会と人間」における取組

「ライフプランの設計」を目標とし、①自己・社会・職業・学問等の理解 ②職業人・先輩等による講演、大学見学 ③進路希望にもとづく科目選択 ④ライフプランの作成 ⑤表現演習を行う。



【ライフプランの設計】

「ライフプランの設計」を行いながら、「読む力」「聞く力」「書く力」「話す力」等基礎的・基本的な知識・技能の習得を図っている。また、文部科学省の研究指定事業（「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究事業」）を活用して、「産業社会と人間」の諸活動の中で論理的思考力、構想力、主体的行動力を育てる評価手法の研究・開発を行っている。

(3) 地域性を素材とした取組

ア 系列横断的取組

1、2年次：「次代の親づくりのための教育」等出前事業、3年次：インターンシップ
全年次：近隣小学校での読み聞かせボランティア

イ 各系列の特色を生かした取組

(7) 社会科学系列：「社会福祉基礎」、「介護福祉基礎」等福祉科目の旭川大学との連携

(1) 自然科学系列：SPP（サイエンスパートナーシッププロジェクト）による旭川医科大学との連携授業（「生物」、「物理」）、学校設定科目「旭川の自然」の開講

(4) 成果と課題

ア 成果

総合学科7年目を迎え、3年間を見通した系統的なキャリア教育の流れはできつつある。また、「産業社会と人間」等の取組により、将来の目標を持ち意欲的に授業に臨む生徒が増え、結果として学力も向上傾向にある。

イ 課題

今後については、文部科学省研究指定事業の成果を活かしながら、よりきめ細やかな評価法等を活用し、一層の個に応じたキャリア教育の工夫と改善、主体的に学び続けられる生徒の育成が望まれる。